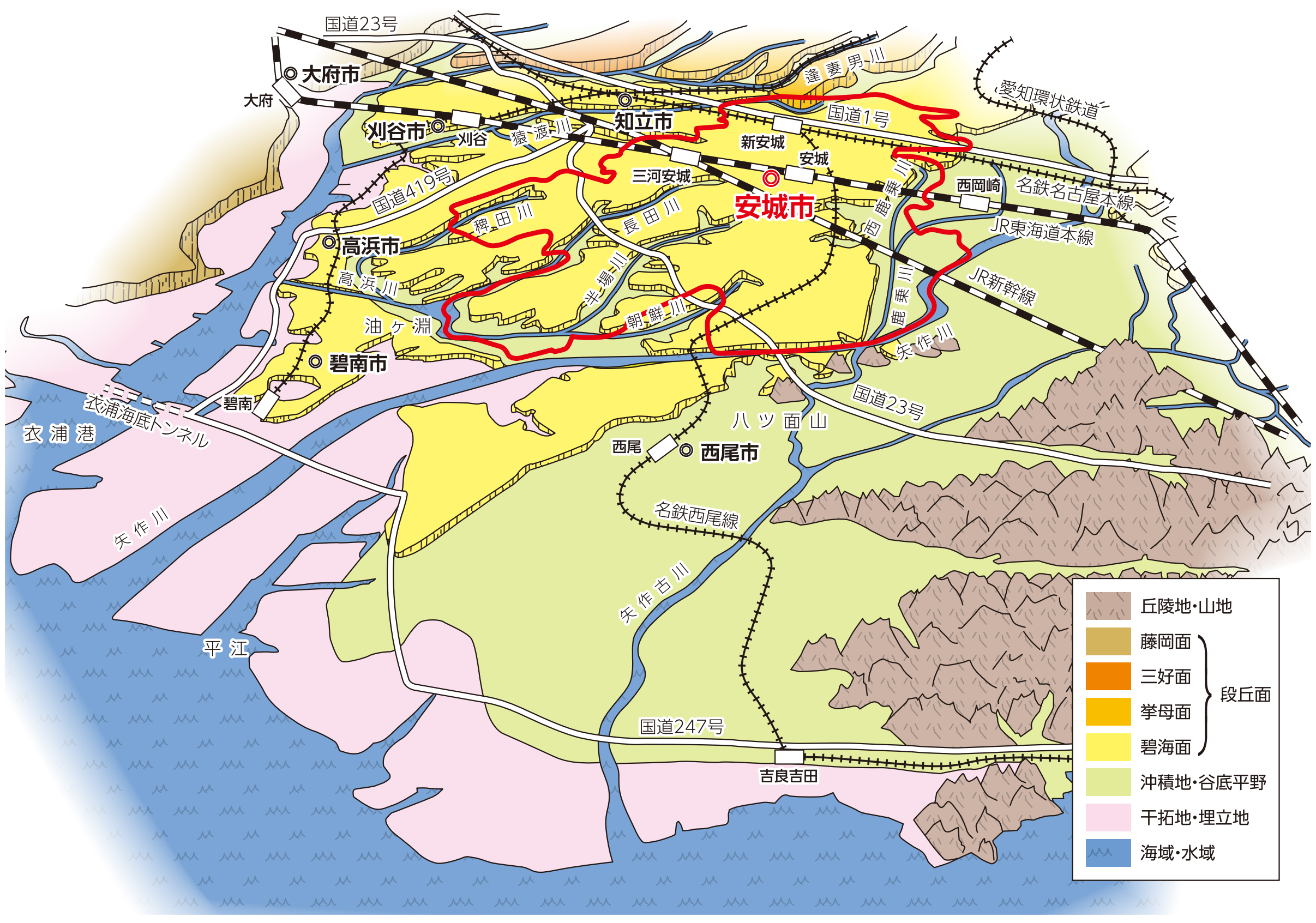
安城市地震ハザードマップ

写真提供：応用地質(株)



問い合わせ先
安城市役所 市民生活部 危機管理課
〒446−8501 愛知県安城市桜町18番23号
TEL 0566-76-1111(代表) 0566-71-2220(危機管理課) FAX0566-76-1112(代表)
E-mail bosai@city.anjo.lg.jp(危機管理課)
ホームページ https://www.city.anjo.aichi.jp

監修：名古屋大学減災連携研究センター
令和7年6月 第7版 作成
(平成27年9月初版)

歴史に学ぶ

過去に発生した地震について

1945年(昭和20年)1月13日に三河湾で発生した三河地震は、マグニチュード6.8の直下型地震でした。震源に近い現在の西尾市では震度7相当であったといわれています。およそ1ヶ月前の1944年(昭和19年)12月7日にもマグニチュード7.9の海溝型巨大地震(昭和東南海地震)が熊野灘付近で発生しており、それらの痕跡を示した石碑が数多く残されています。フィリピン海プレートが潜り込む静岡県から四国にかけての南海トラフ海域では、マグニチュード8クラスの大地震が100年から150年の周期で繰り返し起こっています。

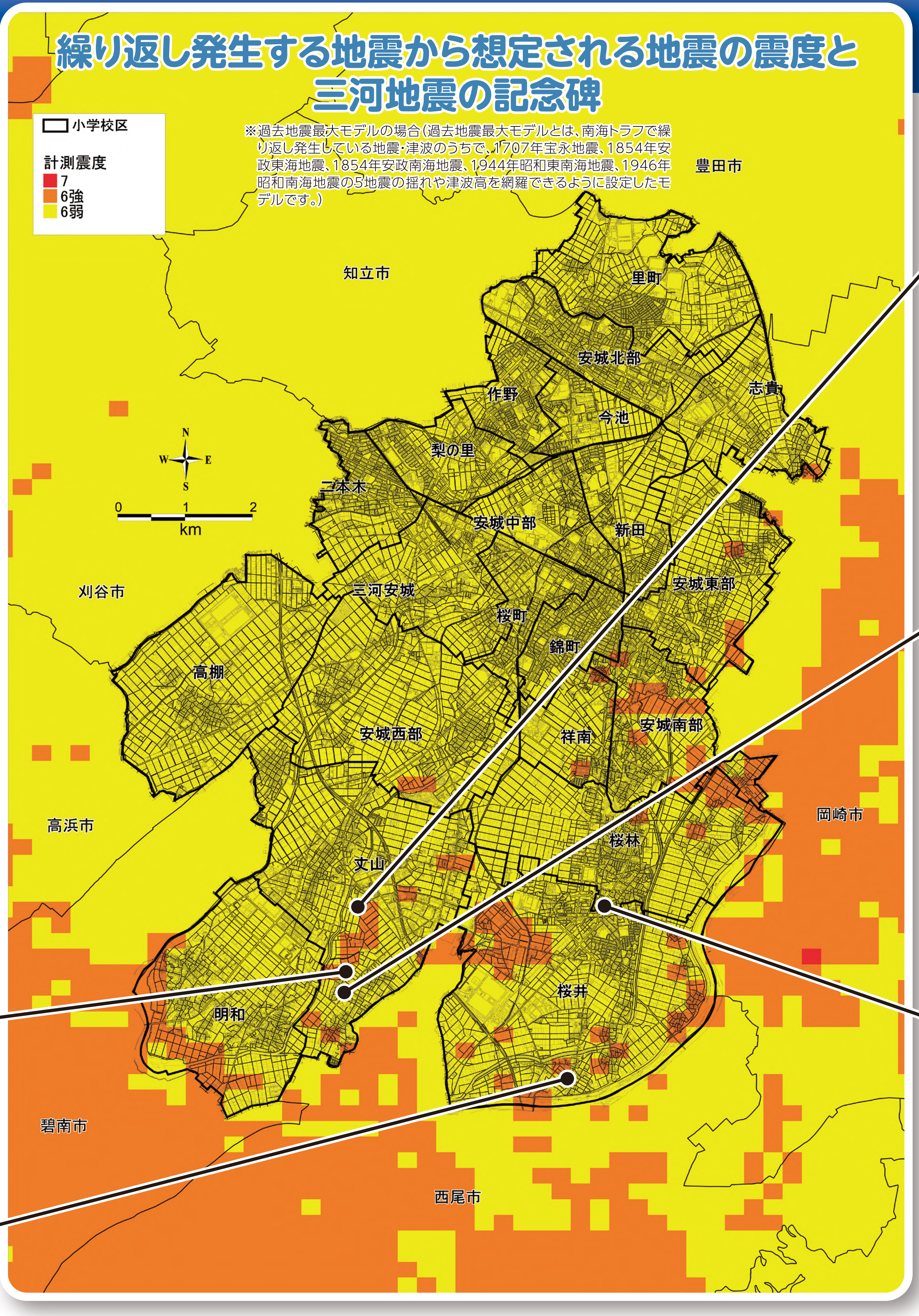
地震	発生年月日	安城市域における主な被害の概要
三河地震	1945年 (昭和20年) 1月13日	安城市内の被害:全半壊2702戸、死者396名、重傷者618名。そのうち、藤井町:全半壊117戸、死者77名、重傷者97名、小川町:住家全壊72戸、半壊155戸、非住家全壊168戸、半壊219戸、死者40名。家屋・寺社・小学校等の建物倒壊。三ヶ根山から北西の方向にあたる江原(幡豆郡三和村)・藤井(桜井村)城ヶ入・和泉(明治村)地区で被害が特に集中。震災殉難者之碑、震災死歿者精霊碑、震災遭難之碑、三河地震追憶之碑などを建て被害を伝承。地震時に稲妻のような光もあり。道路に地割れ。深溝から矢作川の沖積低地で著しい被害。矢作古川付近では2m沈下したところがあり、田は沼化※1。
昭和 東南海地震	1944年 (昭和19年) 12月7日	安城町の被害:死亡1人、重傷5人、軽傷4人、住宅の全壊53戸、半壊甲47戸、乙76戸、丙93戸、非住家全壊270戸、半壊486戸。市街地では朝日町と栄町の被害が大きく、上条地内では250mにわたり道路に亀裂が生じ、落下箇所も数か所あり。田は泡を吹く※2。東海道本線では笠寺・安城付近で道床※3がくずれ、12輌の列車が転覆。三河湾沿岸には1mの津波。鹿乗川の堤防が海のように波打つ。桜井の駅構内で、幅10cm位で長さが7・8m位の亀裂。
濃尾地震	1891年 (明治24年) 10月28日	碧海郡全体で死者3人、負傷者21人、住家の全半壊625棟。鹿乗川流域で、灯籠・記念碑倒壊、倒壊家屋多数、地面に亀裂。油ヶ淵沿岸の新田一帯が地盤沈下し、翌年より沿岸一帯の水災※4を助長。
安政東海・ 南海地震	1854年 (嘉永7年)	家屋破損・大破、田畑で泥水噴出・陥没、河川・新田の堤防が沈下・崩壊・割裂、水門破損、矢作橋が、弓なりに傾く。
宝永地震	1707年 (宝永4年)	新田で地盤沈下、水はけ悪く、潮差込ような被害あり。
天正地震	1586年 (天正13年)	三河でも揺れが大きく、余震多かった。地震後に飢饉・疫病で死者あり。

※1 沼化→液状化　※2 泡を吹く→液状化が発生する　※3 道床→線路の路盤と枕木の間の層　※4 水災→洪水などによる災害
注:各地震の被害量の数値については諸説があります

震災遭難之碑(城ケ入町稲葉共同墓地内)
墓地内に昭和20年(1945)三河地震の「震災遭難之碑」が建立されています。碑には地区の被害の状況が記されているほか、犠牲者への感謝と慰霊のためという碑の建立目的が記されています。

三河地震追憶之碑(安城市藤井町)
昭和20年(1945)三河地震において、藤井地区では全人口611人(117戸)のうち77人が亡くなりました。この世の生地獄そのものであったことが記されています。

繰り返し発生する地震から想定される地震の震度と三河地震の記念碑



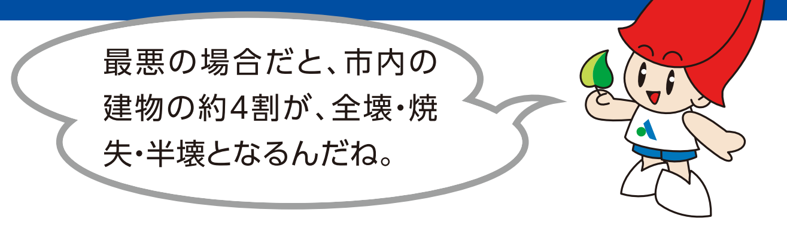
※過去地震最大モデルの場合(過去地震最大モデルとは、南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで、1707年宝永地震、1854年安政東海地震、1854年安政南海地震、1944年昭和東南海地震、1946年昭和南海地震の5地震の揺れや津波高を網羅できるように設定したモデルです。)

震災死歿者精霊碑(和泉町向共同墓地内)
昭和20年(1945)三河地震の記念碑です。この場所は震災直後に、この地の犠牲者の遺体が埋葬された場所だと言われています。

震災殉難者之碑(安城市城ヶ入町本郷:城ヶ入町本郷共同墓地内)
墓地内に「震災殉難者之碑」があります。碑裏には昭和20年(1945)三河地震により亡くなった15人の氏名が刻まれています。

震災記念碑(安城市桜井町大役田:安城市役所桜井支所内)
昭和20年(1945)三河地震の記念碑です。碑文には「殊に大字藤井部落は数戸を残して倒潰し暁暗不遇にして惨鼻を極め敗懐の相筆舌を超ゆ」と地震被害の状況が刻まれています。

被害の予測


最悪の場合だと、市内の建物の約4割が、全壊・焼失・半壊となるんだね。

上段：過去地震最大モデル(注1)
下段：理論上最大想定モデル(注2)

人的被害

〔冬・深夜(5時)〕(人)

	建物倒壊	浸水	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀などの転倒、屋外落下物	合計
死者数	63 (644)	0 (0)	0 (0)	1 (96)	0 (0)	64 (740)
重傷者数	133 (1,056)	0 (0)	0 (0)	0 (27)	0 (0)	133 (1,083)
軽傷者数	900 (2,816)	0 (0)	0 (0)	0 (69)	0 (2)	900 (2,887)

建物被害

〔冬・夕方(18時)〕(棟)

	揺れ	液状化	浸水	急傾斜地崩壊等	火災	合計
全壊・焼失棟数	1,264 (11,487)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	622 (3,990)	1,889 (15,479)
半壊棟数	5,720 (12,412)	4 (3)	51 (31)	0 (0)	ー (ー)	5,775 (12,446)

ライフライン被害(注3)

	被害想定	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約8割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、約600戸が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

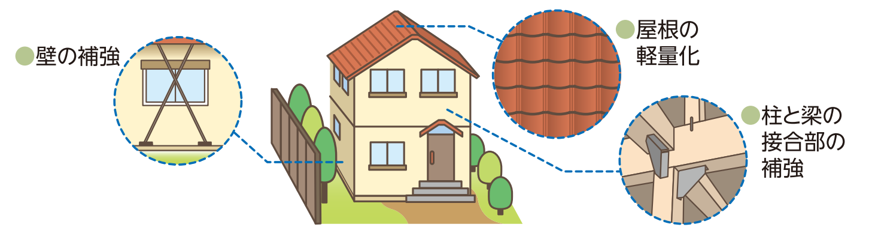
(注1)過去地震最大モデルとは、南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうちで、1707年宝永地震、1854年安政東海地震、1854年安政南海地震、1944年昭和東南海地震、1946年昭和南海地震の5地震の揺れや津波高を網羅できるように設定したモデルです。
(注2)理論上最大想定モデルとは、南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスのモデルです。
(注3)このライフライン被害予測は、安城市が平成26年度に実施した地震被害予測調査において、南海トラフで繰り返し発生している地震のうち、発生したことが明らかで規模の大きいものを重ね合わせた「過去地震最大モデル」において想定される被害を示したものです。

事前対策 地震に備える

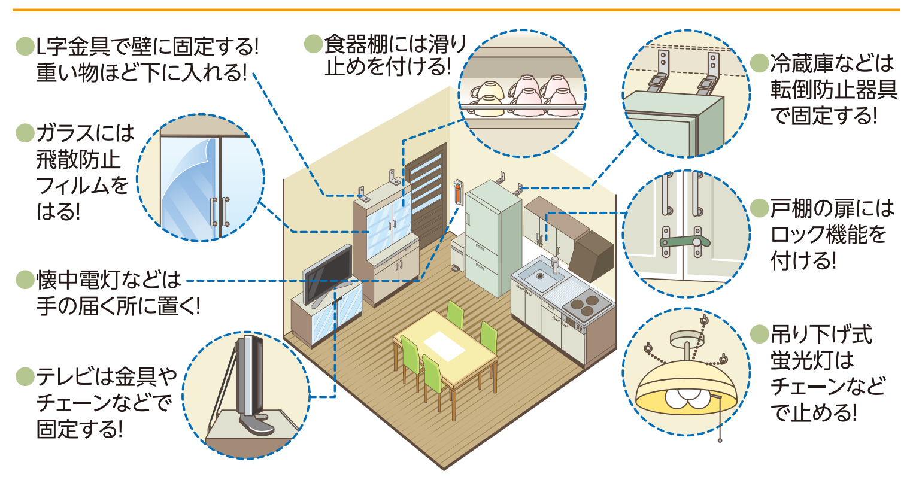
人的被害への備えとして

阪神・淡路大震災の死因の8割は、家の倒壊や家具等の転倒による圧迫死です。

家を倒れないようにしよう


●壁の補強
●屋根の軽量化
●柱と梁の接合部の補強

家の中を安全にしよう


●L字金具で壁に固定する! 重い物ほど下に入れる!
●食器棚には滑り止めを付ける!
●冷蔵庫などは転倒防止器具で固定する!
●ガラスには飛散防止フィルムをはる!
●戸棚の扉にはロック機能を付ける!
●懐中電灯などは手の届く所に置く!
●テレビは金具やチェーンなどで固定する!
●吊り下げ式蛍光灯はチェーンなどで止める!

家具から身を守るために

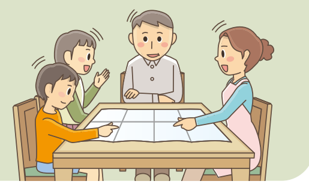
□ 家具が倒れたり、落ちてきたりしないように固定してある。
□ 家具が倒れても人間がつぶされないように配置してある。
□ 家具が倒れてもドアがふさがれないように配置してある。
□ 出入り口や通路にはなるべく荷物を置いていない。
□ ピアノや本棚など重たい家具は1階に置いてある。

安城市の助成制度

以下の助成制度を使って、地震に備えましょう。

①昭和56年以前の旧建築基準の木造住宅無料耐震診断
②木造住宅耐震改修費補助
③高齢者及び身体障害者に対する木造住宅耐震シェルター等整備費補助制度
④昭和56年以前の旧建築基準の非木造住宅の耐震診断費・耐震改修費補助制度
⑤ブロック塀等撤去費補助
⑥住宅耐震改修に伴う固定資産税の減額措置
⑦ひとり暮らし高齢者及び障害者世帯に対する家具転倒防止器具取付事業
⑧防災ラジオの販売
⑨感震ブレーカー設置補助金制度
⑩雨水貯留浸透施設設置補助事業

災害はいつ起こるかわかりません。
この「地震ハザードマップ」で地震の被害や地震への備えについてご家庭で日頃から話し合いましょう。災害が起きた時、まず自分や家族の命を守るために、ご家庭での備えをチェックし、できることから始めましょう。



ライフライン被害への備えとして

チェックしてみよう!

こんなものを用意しよう!

必ずそろえよう

□ 飲料水(1人1日3ℓを目安に、できれば1週間分くらいを)
□ 非常食(アルファ化米、缶詰、ビスケットなど)
□ 救急医療品、常備薬、お薬手帳
□ 体温計、マスク、アルコール消毒液
□ 免許証、マイナンバーカード、健康保険証のコピー
□ 現金(小銭も必要)
□ 携帯電話の充電器、バッテリー
□ 携帯ラジオ、予備の電池
□ タオル、ウェットティッシュ
□ 携帯トイレ、トイレットペーパー
□ 紙おむつ、おしりふき
□ 離乳食、粉ミルク、液体ミルク、ほ乳びん(乳児のいる家庭)

なるべくそろえよう

□ 衣類、下着類
□ ライター、マッチ
□ めがね、コンタクトレンズ
□ 生理用品
□ ブルーシート(敷物、雨よけ用)
□ 軍手、ヘルメット
□ キッチン用ラップ
□ 紙コップ、紙皿、わりばし
□ ビニール袋
□ Wi-Fi
□ マウスウォッシュ、ドライシャンプー
□ 使い捨てカイロ(冬)、冷却シート(夏)
□ 雨具、アルミ製保温シート

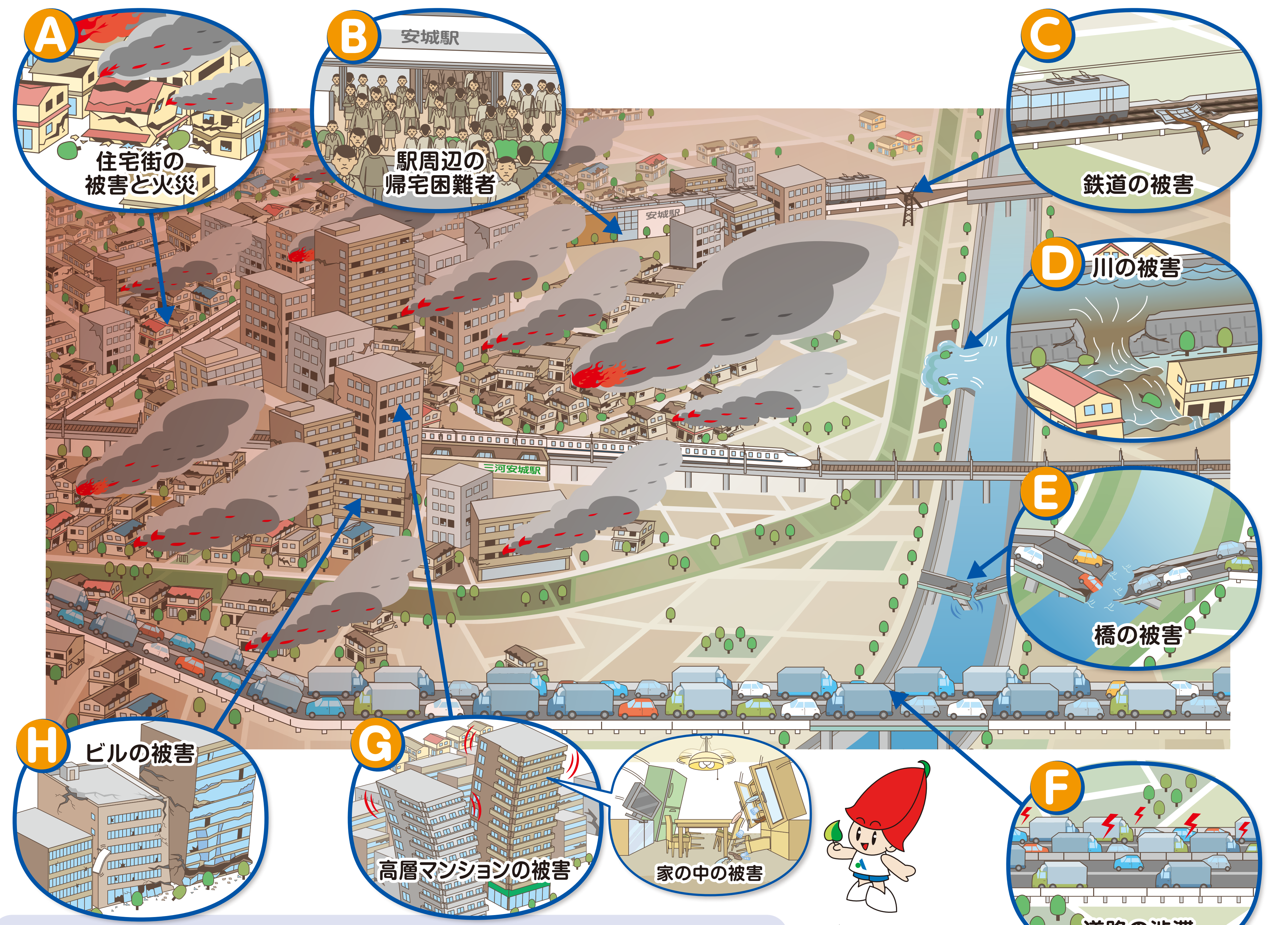
物置などに入れておこう

□ 毛布
□ 寝袋
□ 工具類
□ カセットコンロ、予備のガスボンベ
□ 調理道具
□ 食器類
□ 給水用ポリタンク
□ ゴミ袋

やっておこう!

枕元に懐中電灯・厚底スリッパ・ホイッスルを置いておく。
携帯電話に家族の写真を保存しておく。
家族の写真を財布や手帳などいつも持ち歩くものにいれておく。

地震が起きるとどうなるの?


A 住宅街の被害と火災
B 駅周辺の帰宅困難者
安城駅
C 鉄道の被害
D 川の被害
E 橋の被害
F 道路の渋滞
G 高層マンションの被害
家の中の被害
H ビルの被害

緊急地震速報ひと口メモ
震度5弱以上が推定される場合に、テレビ・ラジオなどを通じて、緊急地震速報が流れます。

緊急地震速報とは?
地震発生直後に、震源近くで地震(P波・初期微動)をキャッチし、位置・規模・想定される揺れの強さを自動計算し、地震による強い揺れ(S波・主要動)が始まる数秒〜数十秒前にお知らせする情報のことです。 ※震源の近い場所では、間に合わないことがあります。

大きな地震がくると、停電になって、水も止まるし、エレベータも使えなくなっちゃうね。

A 住宅街の被害と火災

耐震性の低い建物は倒壊します。住宅密集地では複数箇所で同時に火災が発生する恐れがあります。また、家屋の倒壊や家具の転倒により、多くの死者やケガ人が出ます。

B 駅周辺の帰宅困難者

鉄道やバスなどの公共機関が運休すると、多くの人が行き場をなくし、駅などに滞留します。中には自宅に戻ることができない帰宅困難者も発生します。

C 鉄道の被害

地震の揺れによって線路が変形し、通行の再開までに時間がかかります。走行中の列車が脱線する可能性もあります。

D 川の被害

堤防が沈下し浸水するおそれがあります。津波の遡上にも注意が必要です。

E 橋の被害

耐震補強されていない橋は崩落し、道路が寸断されます。

F 道路の渋滞

高速道路が通行止になります。一般道は通行規制や通行止により渋滞が発生します。一般車両の渋滞が、消防車や救急車など緊急車両の救急・救助活動を妨げる原因となります。また、倒壊した建物が道路をふさぎます。

G 高層マンションの室内での被害

地震の揺れと建物の揺れが共振すると、ビルやマンションの高層階では、建物が大きく揺れ、家具の転倒などの危険があります。

H ビルの被害

ガラスや外壁などが落下したり、建物が倒壊したりします。

事後対策 もしも地震が起きたら…

①まずは身の安全を確保しましょう

丈夫な机やテーブルの下にもぐるなどして、身の安全を確保しましょう。

②逃げ道を確保しましょう

玄関ドアや部屋の窓を大きく開けて、避難できるようにしましょう。

③落ち着いて火の始末をしましょう

揺れがおさまったら、コンロやストーブ、ファンヒーターなどの火を消しましょう。逃げる際にはブレーカーを落としましょう。

④正しい情報を収集しましょう

「安城防災ナビ」や「Yahoo!防災速報」などのスマートフォンアプリ、市公式LINEや市公式X(旧Twitter)などのSNS、市が販売している「防災ラジオ」、ケーブルテレビの「KATCH」、FM放送の「PitchFM」などから情報収集しましょう。

(防災ラジオ申込先：危機管理課)

⑤災害時医療救護体制

安城市内で大規模地震(震度6弱以上)が発生した場合に、市内5箇所※(東山中学校、安城北中学校、安城南中学校、明祥プラザ、桜井中学校)に医療救護所を開設できるよう体制を整備しています。大規模地震時には、負傷者はまずこの5箇所の医療救護所にて手当てを受けることになります。(※2018年11月から医療救護所が一部変更になりました。)

家族のメモ

名前	生年月日	血液型	学校・勤務先名
	年　月　日	RH プラス マイナス	TEL
	年　月　日	RH プラス マイナス	TEL
	年　月　日	RH プラス マイナス	TEL
	年　月　日	RH プラス マイナス	TEL
	年　月　日	RH プラス マイナス	TEL

災害用伝言ダイヤル

伝言の録音方法	171 ＋ 1 ＋ 市外局番 0566 - ○○ - ××××
伝言の再生方法	171 ＋ 2 ＋ 市外局番 0566 - ○○ - ××××

避難所名	家族が離ればなれになった時の集合場所
名称　TEL	